

皇長孫殿下の御降誕を祝し奉りて

盛岡 菅原文一郎

契御縁
れ階じうにたまひする
れ
我が大君と
皇長孫のまづらん
うにたまひする
う
君泛波う秋みゆ
萬べ静る津ぐ
歳るかほ島み
と龜なひ根の露
雲に舞ゆる四の露
祝ひまつれよ
我が大君と
皇長孫のまづ
とほきまつれよ
方ながたれよ
に
仰ぐべき
御降誕
千代かけ
富士の巒
とことははに
うああ身
たじなまくに
ふだばれさう
なづらかのけ
りもにる
君い海山枝
萬さわわ威
歳やかがの
を國聲ひ
民になかり
り

海水浴 濱 子

濱の松風音清きはとりに、海水浴するは夏の愉快
のひとつにこそあれ、我國にては十年あまり前よ
り此事行はれ來りつ。其有益なること、やうく
人の知る所となりて年を逐うて盛になりぬ。さて
海水浴の人體に有益なるは、海水中にくめる鹽
素、あるはソヂユームの、皮膚をとほして人の體
内に入り、體熱の爲に化學的變化を起すによるな
り。又波動の作用、海濱の清空氣も相待ちて効を
奏するものなりとぞ。我國にて、はじめて行はれ

唱も振り仰
へるふへき
てとます見
てもまでま
人」にて